

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0872100284		
法人名	有限会社カサブランカ		
事業所名	有限会社カサブランカ	ユニット名(
所在地	茨城県ひたちなか市平磯遠原町17-14		
自己評価作成日	令和 3 年 6 月 5 日	評価結果市町村受理日	令和3年8月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvoSyCd=0872100284-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート		
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階		
訪問調査日	令和 3 年 6 月 30 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく家庭的な施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は団地内にあり、町内の清掃活動に参加するなど、利用者は地域住民の一人として生活している。 事業所は利用者を家族として位置付け、「その人らしく生活する」ことをモットーに日々の支援に努めている。 コロナ禍で面会ができない家族等にはスマートフォン等を活用して、話し合える場を作っている。 職員間のコミュニケーションが良く取れており、笑顔で明るい職場となっている。 食材も地元産にこだわるとともに、職員の手作りの食事は好評を得ている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関に掲示している。その人らしい暮らしが出来るよう、取り組んでいる。	理念を玄関に掲示するとともに職員会議時やカンファレンス時に全員で確認している。その人らしい暮らしができるように、家庭で暮らしてのようなケアを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナ禍にあり、地域の方々との交流やふれあいが中々出来ませんでした。が、地域の一員として関わりを持っている。	自治会に加入している。地域の公園の清掃活動に参加したり、地域住民から季節の野菜等の差し入れをもらったり、祭りの時には休憩所に利用してもらうなど良好な関係を構築している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の祭りや自治会の奉仕活動に参加させていただいていましたが、現在コロナ禍のため自粛しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防のため文章による開催であるが、出来る限り意見を求め取り組んでいる。	家族等の代表や地域包括支援センター職員、民生委員等が参加して行っていたが、現在は電話等で意見を聞いて、議題のみを配布しているが意見が出るまでには至っていない。	各委員に行事や利用者の状況、事業所の取り組みの詳細内容の議事録も配布し意見を出し易いようにすることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点など市に相談し、協力を得ながら取り組んでいる。	介護保険更新時や生保受給者の相談、認定調査のことなどで窓口を頻繁に訪問しているほか、分からないことは問い合わせをして市職員の指導を得ている。ひたちなか市主催の研修会には必ず参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回身体拘束について研修を行い取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置し3ヶ月毎に開催し、運営推進会議でも報告している。身体拘束の必要な利用者について職員全員で毎月検討会を実施して、身体拘束をしないで済むようなケアに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で勉強し、虐待の防止につとめている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要がある家族や関係者に話を通している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、改定に際しては面談の上、ご利用者、ご家族の権利や義務を分かりやすく説明し質問に応じ十分に理解、納得していたできるよう務めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルスの関係で家族との面談がしにくい状況ではあるが、請求時等に出来事等を記載し、生活の様子等をお知らせしている。又、個別で家族との連絡等随時している。	契約書、重要事項説明書に行政機関、公的機関の苦情相談窓口を記載している。家族等とはスマートフォンのアプリを使用して情報交換をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見に耳を傾けながら、それらを運営に反映させている。風通しの良い関係作りに努めている。	随時話し合う機会を設けて、職員から意見等を引き挙げている。職員自らがシフトの作成や休暇を書入れ、働きやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト作成等、カレンダーに職員が自由に休みを書き入れ、職員が向上心を持って、働きやすいよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会や行政から案内がされるので職員え知らせ受講を支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の取り組みをおこなっていたが、現在コロナ禍のためさしひかえています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学の段階から気持ちや思いを聞き、安心した入所生活を送ってもらえるよう、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様に寄り添いながら、関係づくりに日々、努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人の気持ちや思いを聞き、アットホームな施設での支援が適応するのか良く話を聞き、見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設が家庭的・家族的な雰囲気であり、暮らしを共にする者同士の関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調面等、気になる時等は電話で家族に報告し、理解を得たり、考えを聞いたりしながら、本人の支援を得られるよう、働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの関係で、交流を控えてもらっているが、生活の状況を知ってもらえるように連絡をとりあっている。	入所前の相談や契約時に本人、家族等からの聞き取りをフェイスシートに記録している。職員が自宅周辺や海など、利用者の希望する外出先にドライブを兼ねて同行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活場所では、自由に行き来できるので、廊下やトイレ待ち、食堂で過ごす時、いつでも会話しあえ、孤立なく過ごしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様も高齢化しているため、様々な形で、家族様に対しても支援をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活に関わり、発せられた言葉、会話から思いをくみ取るようにしている。食事の好みも把握し、食べられるものに変えて提供するなど、楽しく美味しく食べられるよう工夫している。	日々の会話や支援時の反応等より利用者の希望や要望の把握に努め、特記すべき事項については、申し送りノートに記載するように努めているが、情報を共有するまでには至っていない。	利用者が新たに発信した思いや職員の気づきが埋もれてしまわないように、職員間で共有できるような記載方法を期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のこれまでの生活や好みを把握すると共に、家族の思いを聞き、本人らしく生活してもらえるよう、取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の活動内容、その様子や過ごし方を記録し、申し送りすることで変化や発見等を職員間で情報を共有し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の生活がより良く暮らしていただけるよう、本人や家族からの情報を把握し、プラン作成にあたっている。	家族等や利用者の意向を基にして医師や看護師の意見を聞いて3ヶ月ごとにモニタリングを行いながら基本6ヶ月で見直しを行っている。利用者の状況に変化があれば随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護職員は、入居者へのケア時に気づくことを、個人ファイルに記録し、情報共有し実践に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、緊急性の受診等、個別に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの関係で、以前行われていた地域の方との交流を控えさせてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には、医師へ本人の日頃の情報を伝え、適切な医療を受けられるよう支援している。	協力医療機関の医師による往診は月に2回ある。これまでのかかりつけ医への受診が可能なことを説明している。受診には管理者が同行するため、医師への情報は口頭で伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の方達と、日々の情報や気づき等を相談し、適切なアドバイスや看護を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院関係者との情報交換や相談は常にしている。今までも、入院時は病院・病室には毎日、顔を出すようにしてきた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りに関する同意書がある。状況の変化に応じた繰り返しの話し合いと、段階的な合意を行い、施設が出来ることをはなしている。	重度化や看取りに関する同意書がある。状況の変化に応じた繰り返しの話し合いと、段階的な合意を行なっている。重度化や看取りのマニュアルを作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践力を身に付けられるよう、必要に応じて、勉強会等を開催している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難、防災訓練を実施している。訓練後には、課題点について検討し改善に取り組んでいる。	避難訓練を年2回行っているが夜間想定での訓練を行うまでに至っていない。また反省会を行い課題について話し合っているが次の課題を記録するまでに至っていない。	夜間想定での避難訓練を年1回実施するとともに、次回に向けた課題等を記載する議事録の作成を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重出来るよう、個別に良く話を聞き、本人の思いをくみ取りながら、生活の支援にあたっている。	人格に配慮した言葉遣いに留意し、支援に努めている。個人情報に係る書類等は施錠できる事務所の書棚で管理している。人権尊重や守秘義務について年1回内部研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定できるよう、全職員ケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設での基本的な流れはあるものの、その方の体調や、思いを尊重して過ごしてもらっている。入所者の思いを優先するように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれのこだわりを大切に、解除が必要な方でも思いを聞きながら、一緒に身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の出来ることから、無理せず準備やかたづけをしてもらっている。	食材はできるだけ地元産の物にこだわり、職員が手作りしている。利用者は下膳などできることを手伝っている。利用者からリクエストメニューを聞いて提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体重変動を毎月記録し、観察している。水分補給も食事時、おやつ当の間時間の他、散歩や入浴後当、摂取してもらえるようにしている。水分量や食事量も記録し、常に体調を観ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の口腔ケアをおこなっている。又、本人の力に応じた口腔ケアを行い、個人ファイルに毎日の口腔ケアチェック項目がある。在宅歯科が入っているので、口腔衛生や治療等、専門的な口腔ケアが行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中、夜間の排泄状態について、排泄パターンを、全職員が理解・把握しており、自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表や個人記録からそれぞれの排泄パターンを把握して、日中、夜間を問わずできるだけトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ体操等、体を動かしたり、水分摂取をすすめ自然な排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日の入浴は行っている。基本的な順番はありますが、入りたい方は体調に合わせて、その都度、入浴していただいています。入浴の時間については、ご利用者様達の疾病等もからみ、現在は日中に行っている	入浴は基本週2回利用者の希望に沿っていつでも入れるように支援している。その時の状態に応じてシャワー浴や清拭で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースに合わせて、全職員がケアを行っている。安心して、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方箋を添付しており、利用者様ごとに、どんな薬を使用しているのか、目的や副作用等、理解している。又、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願いできるような仕事を頼み、感謝の言葉を伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナウイルスの関係で、出かけることを控えているが、それでもドライブに行ったり、散歩に出たりして、コロナ禍でも外出等の希望を聞くようにしている。	コロナウイルス感染症対策上、現在は控えているが、天気の良い日には近隣への散歩に出かけたり、近所のコンビニに買い物に出かけている。季節を感じられるよう、屋外での外気浴やお茶会を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設側で行っているが、その時々(買い物・孫等にあげるお小遣い・お祝い等・・・)によって、使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたたり、手紙を書ける方には、希望に添えるようお手伝いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事やお茶の場所が、入居者様達の集まる中心の共用空間となっており、自由に過ごす場所になっている。季節ごとに花を飾ったり、工夫している。	門扉を入ると玄関までの通路の花壇には多様な花が植えられ、ベンチも配置されて寛げる場所となっている。共有空間にもソファが配置され、温度と湿度が管理されて快適に過ごせるよう工夫している。2階建てで、災害の際には避難し易いように外にらせん状滑り台が設置され、安全に避難できるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	書道の近くにソファを配置し、テレビを観たり、入居者同士で会話を出来るよう居場所の工夫をしている。コロナ感染対策のため、飛沫防止パネル、三密を避け対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く出来るよう、家族の写真や季節の花を飾り、配置は出来るだけ変えないようにしている。	自宅同様に過ごせるよう、使い慣れた物の持ち込みを説明し、持ち込んでもらっている。利用者はそれぞれ使い慣れた寝具や家族等の写真、整理筆筒やいすなどを持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの配置等、安全に配慮したつくりとなっているが、必要であれば名前を書いたり、安全かつわかりやすいように工夫している。		

(別紙4(2))

目標達成計画

所在地 有限会社カサブランカ

作成日 令和3年7月26日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	現在はコロナ感染症の予防のため電話等で意見を聞いているが、意見が出るまでには至っていない	各委員が意見を出しやすいようにするために、議事録を配布していきたい。	市へ提出している議事録を、各委員へも配布していきたい。	3ヶ月
2	23	利用者の情報共有が職員間で出来ていない。	利用者の情報共有が職員間で出来るようにしていきたい。	利用者の情報共有が出来るように職員間で、記載方法を検討していきたい。	3ヶ月
3	35	夜間想定避難訓練が出来ていない。又、次の課題を記録することが出来ていない。	夜間想定避難訓練を実施していきたい。又、次の課題を記録していきたい。	夜間想定避難訓練を実施するとともに、次回に向けた課題等の議事録の作成をしていきたい。	3ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。